令和７年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　貴船　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和７年４月１７日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１８日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問調査

児童質問調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の６年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	正答率のよい問題もあるが、全体的にみると全国平均と比較して正答率が低い問題がみられる。特に、「読むこと」「話すこと・聞くこと」の内容に関しての問題の正答率が低い。また、「理由をまとめて書く」問題に対しては、無回答がみられる。
	よくできた問題	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き方を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることかできるかどうかをみる問題に努力を要する部分がみられる。

算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均と比較して正答率が低い問題がみられる。特に、「図形」と「変化と関係」の内容に関しての問題や、記述式の問題の正答率が低い。
	よくできた問題	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる問題について正答率が高い。
	努力が必要な問題	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題に努力を要する部分がみられる。

理科	全体的な傾向や特徴など	正答率がよい問題もあるが、全体的にみると全国平均と比較して正答率が低い問題がみられる。特に、「エネルギー」を柱とする領域や、「生命」を柱とする領域、記述式の問題の正答率が低い。
	よくできた問題	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	身の回り金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いていつかどうかみる問題に努力を要する部分がみられる。

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
・「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対して、９２％、「友達関係に満足していますか」の問いに対しては９６％の児童が肯定的に回答している。 ・学習面においては、国語や算数、理科の学習に対して「将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに対して肯定的な回答が多い。一方で、算数・国語・理科の「学習内容はよく分かりますか」の問いでは、全国平均を下回っており、苦手意識がうかがえる。 ・家庭学習等に関しては、「学校の授業時間以外に、どのくらいの時間、勉強をしますか」「どのくらいの時間、読書をしますか」の問いに対して、全国平均より少ない傾向がみられる。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・児童が自身の課題（苦手なところや、学習内容をより深めたいところなど）に対して学習内容や学習方法を選んで自分で学習する時間を設定する。
・ 朝や昼の学習タイムを活用し、音読や視写を行うとともに、既習の学習内容の定着を図る。
・授業形態や個に応じた支援を工夫することで、共に学ぶ楽しさやわかる喜びを味わわせるようにする。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の重要性や自ら学ぶよさについて、児童だけでなく保護者にも積極的に伝える。
・個に応じた量や内容や、自分で内容を選択できる宿題を出し、児童が意欲的に取り組めるようにする。
・ドリルアプリを家庭でも取り組めるようにする。